



森の守護神

森ボラ 通信



第 67 号 2007 年 12 月 20 日発行

NPO 法人 **北海道森林ボランティア協会**

札幌市中央区南 2 条西 2 丁目金市館ビル 8F

Tel:241-8155 : Fax:241-8308

E-mail : hshinrinv2002@nifty.com

URL:<http://www.geocities.jp/hokkaidoforest/>

■ トピックス

◆ バイオマスヤナギの普及 (その1)

はじめに

北海道森林ボランティア協会の活動目的は森林の育成と保全です。そして、その上位目標としては当然地球温暖化防止です。少しでも森林を増やしたり活性化したりして森林の二酸化炭素吸収を促進させています。また除伐材や風倒木を利用して薪にしたり炭に焼いたりしています。薪炭としての利用は木質系バイオマスの基本であり、化石燃料の代替であり地球温暖化防止に直接貢献しています。

また除伐材や風倒木の一部は木工に使ったりキノコの栽培の原木にしたり製材にしたり杭材にして利用しています。これは固定炭素の長期保存となり温暖化防止に貢献しています。

CO₂の固定としては、木材をそのままの形で長期間保存する事が最も効果的であり、木工品はその点小さいながらも貴重な形でのCO₂固定です。森林も面積が増えただけでは駄目であり、同じ面積でも蓄積の大きい健全な森林が求められています。私たちが日々行っている活動は小さいかもしれないが地球温暖化防止のための活動です。そして後で述べるように、機会があつて協会としてバイオマスヤナギ栽培の普及を推進してゆくこととなりました。

農家がバイオマスブームに投機(報告の要旨)

南スコットランド中の農家がヤナギ栽培に農地を大きく転換しつつある。その多くはロッカービー郊外に完成間近のステーブンスクロフトバイオマス発電所用の燃料に使われることが期待されている。その発電所は年22万トンの燃料を必要としているが、地域のヤナギが約4万5千トン供給できるものと期待されている。

*バイオエネルギー展

「世界バイオエネルギー展示会 2008」がスウェーデンヨンショピン市で2008年5月27日から29日までElmia ABによって開催されます。1983年頃から隔年開催されているもので新型機械の展示実演だけでなく、栽培地から地域暖房など利用までの見学ツアーもあり最も権威のある展示会です。

Story from BBC NEWS:BBC ニュースからの話 2007年8月20日



バイオマスヤナギ植え付け機械。
長いヤナギを25センチの挿し穂に機械が切って自動で植えつける。

バイオマス

バイオマスとは生物資源と訳され木質系バイオマスといえば廃材、端材、枝条、伐根など通常捨てられる部分を意味してきました。しかし、ウィキペディアを見ると産業資源としてのバイオマスとは、「バイオマス・ニッポン総合戦略では再生可能な、生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの」と定義されている。

そして畜産系バイオマスはバイオガスの分野で発電など着実に進化してきており、農産物系バイオマスはいまや新聞をにぎわしている通り、大豆やとうもろこしはバイオエタノールの原料として脚光を浴びています。しかしそれによって食料の価格高騰を呼びアマゾンの熱帯雨林が減少しているとも聞きます。

しかしながら木質系バイオマスはその圧倒的資源量にも拘わらずせいぜいペレットが話題となる程度で普及が遅れています。木質系バイオマスを原料としたバイオエタノール製造技術の企業化が期待されます。

バイオマスヤナギ

バイオマスヤナギという種類のヤナギがあるわけではなく「燃料をとるために畑に密植されるヤナギ」のことで、世界的にはもう30年も前から栽培されハイブリットも出てきて栽培技術も進み、大型の高性能植栽機械や収穫機械が出てきています。

もともとはスウェーデンが国家戦略として原子力を使わずバイオマスで地域暖房を行うことを決定し、バイオマスヤナギの栽培をはじめ、「スウェーデン式2条植栽」技術がいまや世界標準となっています。

熱帯地方でのユーカリやイビルイビルが早成樹種として使われているように、ヤナギは北半球の北部でその位置はすでに確立しているように見えます。バイオマスヤナギは主に作物不耕作畑に植えられて農家の収入源となつて田園生活を潤し、緑化促進となり防風林となり景観林となり時にはフェンスとなっています。燃料のほか籠の材料や生け花の材料にもなっている。

しかし、石油資源も無く休耕田が多く見られる日本ではどうでしょうか。バイオマスヤナギは普及していません。

優良クローンの選抜、栽培方法については1月の王子製紙株式会社、森林博物館の竹田貴彦研究員による「バイオマスヤナギセミナー」のあとにその勉強結果も含めて書きたいと思っています。(記、酒井)

◆ 三角山斉藤りんご園支援の一年

三角山斉藤りんご園の労力ボランティアを始めてから4年、今年も3月から11月までの期間に、延べ400名余りの会員が参加し、つがる、紅玉、旭、ふじ等を中心に20種類のりんごの収穫に寄与することができました。

〈りんご栽培支援作業を振り返って・・・〉

- 3月～4月 斉藤さんが剪定し終えた枝の処理を、これまで剪定バサミで、手数をかけてしていた作業を昨年から、チップパーを持ち込み、枝の処理をしたことで作業時間、日数が大幅に軽減されました。
- 5月 葉っぱが五重塔のような段々状で、たくさん咲いているときれいな花「姫踊子草」の除草作業、園内全域を這いつくばっての作業でしたが、なぜか心和むひとときでした。斉藤さんは、りんごモニリア病(葉、花、幼果に感染が起こり、発病する)が恐ろしいから、この除草作業が大事だといっていました。真剣に取り組まなければならない作業だったんですね!
- 5/下旬～ 白い花、新鮮な空気、すばらしい景観!
- 6/初旬 りんご園での花を間引く摘花作業は、よもやま話も弾んで楽しく語り合えるひとときでした。
- 6/中旬～ 花が終わり、りんごの実が結実する頃から雨のない日が続き、1回目、2回目の余分な果実の
- 7/下旬 摘み取り作業は順調に進みました。
- 8/下旬～ 除袋・葉摘み作業時、りんごの袋を外すたび、また、葉摘みをするたびに、りんごが焼け爛れたような形状を目にしました。雨が降らないため、日照りの影響を受けたようで、収穫全体の
- 9/下旬 一割五分ほど減収になったとのことです。
- ※日焼けりんごは、生食用のほか、ジュース・ジャムとして販売しています。

りんご園のトピックスとして・・・

- ① 9/19 HTB テレビで「残したい味—斉藤りんご園」と題して、特集番組が放映され、りんご園を支える団体として紹介されました。
- ② 9/28 北海道新聞(夕刊)一面でも、ボランティアが手伝っている斉藤りんご園の様子が掲載されました。
※テレビ放映、新聞掲載後、りんごは園内でしか買えないため、連日、もぎたてのりんごを求めるお客さまで賑わいました。



- 10/初旬～ 収穫作業は、ほぼ、予定どおり推移し、終了しましたが、作業する際の注意事項として、
- 11/下旬 「次年度の花芽を収穫時に誤って取らないように!」と言われていたにもかかわらず、その花芽を何度もりんごと一緒に取ってしまったことは、反省点の一つです。
- 今年は、雨が少なく日照りの続いた日が多かったので、収穫に影響したのではと心配しましたが杞憂だったようで、斉藤さんは「収量は平年並みだった!」と言っていました。
- また、「りんごの世話は、二人ではできない!」「ボランティアの皆さんの手伝いのお陰で、やっていける!」「来年もお手伝いをよろしく!」との伝言がありました。
- 斉藤さん夫妻の苦労が喜びの日を迎えられたこと、来年も多くの方々に、斉藤さんが新鮮なり

んごを提供できるように、お手伝いを継続して行きましょう！

(記、三角山アップル山荘から、虎谷)

■ 今月の幹事会

出席者：荻田、酒井、杉本(茂)、高野(豊)、津金、西野(備)、棟方、山中、和田、

1. 木工展示会、盛会裏で終了しました。

杉本さんご夫妻には、大変ご迷惑をお掛けしました。有難う御座いました。期間中、運営にご協力いただきました皆さん、特に、酒井さん、高橋(静)さん、津金さん、山中さん、はじめ、チラシ配り等に対応していただきました皆さんに御礼申し上げます。終了後、杉本さんご夫妻の慰労も含め会費制で「打上げ会」を実施して終了しました。

	収入(売上)		支出
売上	49,520.	木工品仕入	7,000.
		提示会場使用料	9,000.

合計(収益) 33,520. 夕張・青山・支笏湖等の外部活動交通費として優先して処理します。

2. 忘年会、幹事(杉本さん・山中さん)お疲れ様でした。

・端数は協会に献金されました(¥. 11,970.)、有難う御座います。

途中、三基開発(株)の会社訪問、廃材リサイクル工程の見学とヤナギバイオマス植栽地の見学を実施しました。

・りんご園主・斉藤さんから忘年会へ「収穫りんごとご芳志」をいただきました。有難う御座います。同時に、りんご支援等の交通費も受領しております。お礼を申し上げ報告とします。

3. 遅れておりました理事会が開催され(12/17)、平成19年度上期の事業報告を完了しました。

4. (社)北海道森と緑の会より、「北の元気な森づくりシンポジウム(仮称)」実行委員選出要請があり、2名の実行委員を選出しました。12/19には実行委員会の立上りが実施されます。

実行委員幹事：高野さん、

実行委員：和田さん。

尚、シンポジウムは2月2日(土)14~17時「かでる2・7」で開催されます。奮って参加して下さい。

5. 「アイケンの森」の森林再生・育林・保全活動について内容を協議しておりましたが、12月3日に協定書の取決めとなりました。2月の活動から除伐・風倒木処理の調査に入ります。

6. 助成金関連から

・(株)ニトリから助成金使用状況の中間報告実施依頼がきて、報告しています。

・(財)秋山生命科学振興財団から訪問取材を受けました(事務局：木村氏)。ボランティア活動内容・活動の問題点・財団に対する要望等、高野さんと共に対応しました。

■ おしらせ

◆ 5周年記念事業の木工展示会開催

夏の頃から話のあった5周年記念の木工展示会の会場が杉本ガレージに決まったのは、10月の始めで、11月30日・12月1日・2日の午前10時から午後2時までと、この3日間が木工展示会の開催日となりました。

展示開催中の3日間は、1日の最高気温が5℃前後で最後の12月2日の日はヒラヒラと白い雪が舞う寒い日でした。いつも木工作業場になっているガレージ工場の工房長は、木工会員に作品提供の協力を呼びかけていましたが、木工製品は作るのに時間がかかる物なので月に2度の作業では間に合わず、予定外の日にも作業をして、靴べら・播り粉木・盆・炭・リース・色どりを添えた小鳥の木彫・つる梅もどき・絵画・リサイクル品など57品目240点ほどの力作がガレージ工場の机の上に並びました。

お客様は、知合いの方、またチラシを見て覗きにきて下さり、買っていただく方々などで、およそ36品目92点の品物が売れ、総計49,520円で諸経費を差し引くと33,520円の売上となりました。

作業中の寒さ、ガレージ展示会場の寒さの中で風も引かずに頑張っておくださった会員の皆様ご苦勞様でした。有難う御座いました。(記、杉本則(2007年12月))



■活動履歴

活動日	行 事	参加人数	活 動 内 容
12月18日(火)	澄川	13	間伐・風倒木処理
12月17日(月)	理事会	4	平成19年度上期事業報告、他
12月14日(金)	澄川	14	間伐・風倒木処理
12月12日(水)	セミナー&例会	21	フォレストボードウォーク活動、他
12月10日(月)	幹事会	9	
12月07日(金)	南幌温泉	19	忘年会・三基開発株見学、他
12月06日(木)			
12月04日(月)	澄川	15	間伐
12月02日(日)	木工展示会3日目	17	
12月01日(土)	木工展示会2日目	10	
11月30日(金)	木工展示会1日目	20	木工・杉本邸ガレージ展開催(3日間)
11月29日(木)	木工	13	木工展準備・ギャラリー設営
11月27日(火)	南幌町	13	ヤナギ挿木
11月26日(月)	木工	11	
11月20日(火)	木工	12	

■ひとこま

◆ 忘年会「くつろぎの宿・なんぼろ温泉」

今年の忘年会は、当協会設立5周年記念旅行が9月11日～12日に行われたので、「札幌近郊の温泉に」と言う事になり南幌町「くつろぎの宿・なんぼろ温泉」に決まり、12月6日13時30分、温泉仕立てのマイクロバスに参加者19名を乗せNHK放送局前を出発。

途中、三基開発株に立ち寄り、廃材利用工場を見学する。

この工場で処理する廃材は、一般住宅等建築廃材が多く、係員により、柱・板から、釘、金属等が外され、コンベアに乗せられ大型破砕機へ、そして紙の原料チップに変身。

工場見学は30分位で終わり、ついで三基開発の近くにあるバイオマスヤナギの試験栽培畑をみる。バイオマスヤナギの苗木は、0.6haの畑に挿し穂栽培され、うっすらと雪を纏い元気に？眠っているようだ。来春の雪解けには、色鮮やかなバイオの葉が芽吹くことであろうことを願いつつ「なんぼろ温泉」に着く。



なんぼろ温泉は建物も整い、係員にも持て成しの心が行き届いており、お風呂同様に心が和む。年忘れの宴は18:00から始まり、宴会場備え付けの自動ビンゴ機で、恒例の湯澤氏提供の竹の子争奪ビンゴ大会が賑々しく続き宴は盛会の内に終わる。

その後、幹事の部屋で忘年会の締めを軽く開き、初冬の夜長を楽しみ閉幕とした。

翌7日は晴天、のんびり朝湯につかり、10:00に帰札すべくマイクロバスに乗る。12月には珍しく、抜けるような青空、遮る物は何もない、馬追山に見送られなんぼろ温泉を後にする。(記、山中)